

# 結果の概要

## I 結婚と就業について

### 1 結婚後の就業状況の世代間比較

女性の結婚後の就業状況を10年前と比べると、結婚後に離職した割合が低くなっている。

14年調査と24年調査について、第1回調査時に独身で、2年間（第1回から第3回調査）に結婚した女性の結婚後の就業状況をみると、10年前と比べ、結婚後に離職した割合が低くなっている（表1）。

表1 第1回調査時に独身で2年間（第1回から第3回調査）に結婚した者の性別にみた結婚後の就業状況【14年調査（第3回）・24年調査（第3回）】

		結婚後の就業状況								
		総数	同一就業継続		転職	新規就業	離職	無職継続	不詳	
			(再掲) 正規	(再掲) 非正規						
男	14年調査	100.0	84.2	59.2	5.4	7.9	4.7	0.9	0.9	1.3
	24年調査	100.0	67.0	62.5	1.5	17.0	2.3	0.5	0.5	12.8
女	14年調査	100.0	46.2	28.8	11.2	11.4	3.8	31.0	6.7	0.9
	24年調査	100.0	46.4	36.2	8.5	19.1	3.0	20.4	4.3	6.7

注:1)集計対象は、11頁(1)②及び(2)を参照。

2)2年間(第1回から第3回調査)で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

3)「同一就業継続」には、正規・非正規以外の就業形態等を含む。

### 2 結婚後の就業継続意欲と結婚後の就業状況の世代間比較

現在の仕事を「結婚した後も続ける」と回答した女性で、結婚後も同一就業を継続している割合は、24年調査で69.4%となっており、14年調査同様、高い割合となっている。

2年間（第1回から第3回調査）に結婚した女性（結婚前に仕事あり）の、第1回の結婚後の就業継続意欲別に結婚後の就業状況をみると、現在の仕事を「結婚した後も続ける」と回答した者のうち、同一就業を継続している割合は、24年調査で69.4%となっており、14年調査と同様、高い割合となっている（表2）。

表2 2年間（第1回から第3回調査）に結婚した女性（結婚前に仕事あり）の第1回の結婚後の就業継続意欲別にみた結婚後の就業状況【14年調査（第3回）・24年調査（第3回）】

		結婚後の就業状況									
		14年調査					24年調査				
		総数	同一就業継続	転職	離職	総数	同一就業継続	転職	離職		
結婚後の就業継続意欲(第1回)	総数	(100.0)	100.0	52.6	12.1	35.3	(100.0)	100.0	54.2	22.3	23.5
	結婚した後も続ける	(47.2)	100.0	71.4	6.3	22.3	(52.4)	100.0	69.4	19.7	11.0
	結婚を機にやめる	(23.7)	100.0	31.8	20.5	47.7	(23.5)	100.0	24.5	29.7	45.8
	考えていない	(26.7)	100.0	41.4	14.1	44.4	(22.6)	100.0	52.3	19.5	28.2
	(再掲)正規	(100.0)	100.0	55.4	7.2	37.4	(100.0)	100.0	64.9	17.8	17.3
	結婚した後も続ける	(53.2)	100.0	74.6	3.4	22.0	(57.5)	100.0	79.1	14.6	6.3
	結婚を機にやめる	(25.7)	100.0	28.1	12.3	59.6	(22.1)	100.0	32.6	27.2	40.2
	考えていない	(20.7)	100.0	41.3	10.9	47.8	(19.5)	100.0	63.0	14.8	22.2
	(再掲)非正規	(100.0)	100.0	38.6	22.8	38.6	(100.0)	100.0	36.4	26.7	37.0
	結婚した後も続ける	(34.2)	100.0	53.8	15.4	30.8	(40.6)	100.0	49.3	26.9	23.9
	結婚を機にやめる	(23.7)	100.0	37.0	37.0	25.9	(23.0)	100.0	10.5	31.6	57.9
	考えていない	(36.8)	100.0	31.0	19.0	50.0	(34.5)	100.0	40.4	22.8	36.8

注:1)集計対象は、11頁(1)②及び(2)を参照。

2)結婚後の就業継続意欲の「総数」には、結婚後の就業継続意欲不詳を含み、正規・非正規以外の就業形態等を含む。

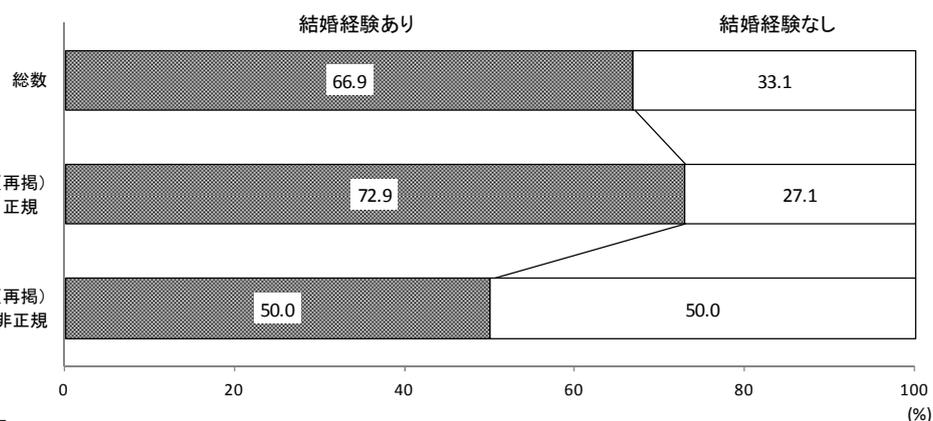
### 3 初職と結婚経験

男女ともに、初職が正規の方が、非正規よりも「結婚経験あり」の割合が高い。

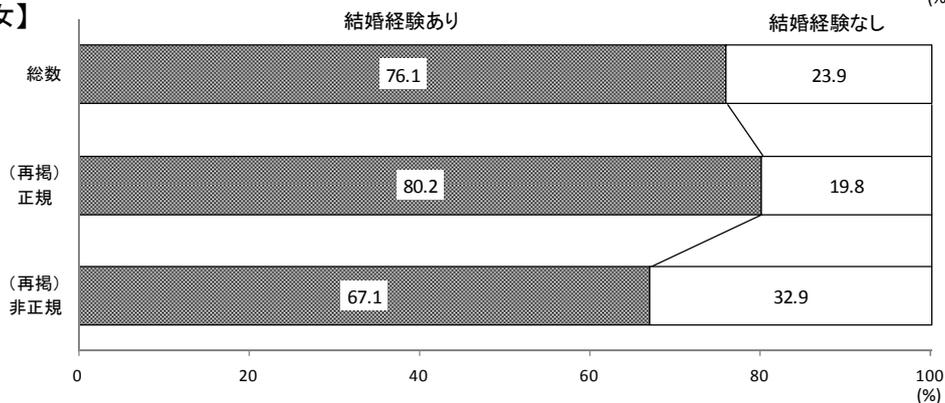
性、初職の正規・非正規別に、第13回調査時までの結婚経験の有無をみると、男女とも正規の方が非正規よりも「結婚経験あり」の割合が高い(図1)。

図1 性、初職の正規・非正規別にみた第13回調査時までの結婚経験の状況  
【14年調査(第13回)】

#### 【男】



#### 【女】



注:1)集計対象は、11頁(1)①を参照。

2)「総数」には、正規・非正規以外の就業形態等を含む。

3)第1回調査時に離婚・死別経験がある独身者であり、その後、第13回調査時までに結婚をしていない者は結婚経験ありには含まれない。

## II 出産と就業について

### 1 妻の出産後の就業継続意欲と出産後の妻の就業状況

現在の仕事を「出産した後も続ける」と回答した妻で、出産後も同一就業を継続している割合は78.1%となっている。

この12年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）について、妻の出産後の就業継続意欲別に出産後の妻の就業状況をみると、現在の仕事を「出産した後も続ける」と回答した者のうち、同一就業を継続している割合は、78.1%となっている（表3）。

表3 この12年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）の  
出産後の就業継続意欲別にみた出産後の妻の就業状況  
【14年調査（第13回）】

(単位:%)

		出産後の妻の就業状況					
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出産後の就業継続意欲	総数	(100.0)	100.0	62.7	4.4	25.4	7.4
	出産した後も続ける	(63.6)	100.0	78.1	4.2	9.8	7.9
	出産を機にやめる	(13.9)	100.0	19.1	2.1	70.2	8.5
	考えていない	(16.3)	100.0	45.5	7.3	40.0	7.3
	(再掲)正規	(100.0)	100.0	77.2	2.2	16.7	3.9
	出産した後も続ける	(75.6)	100.0	85.3	2.9	8.1	3.7
	出産を機にやめる	(8.3)	100.0	26.7	-	66.7	6.7
	考えていない	(12.8)	100.0	60.9	-	34.8	4.3
	(再掲)非正規	(100.0)	100.0	44.3	5.7	47.2	2.8
	出産した後も続ける	(39.6)	100.0	76.2	2.4	16.7	4.8
	出産を機にやめる	(28.3)	100.0	16.7	3.3	76.7	3.3
	考えていない	(21.7)	100.0	34.8	13.0	52.2	-

注：1)集計対象は、11頁（1）①を参照。

- 2) 出産後の就業継続意欲は、第1回調査から第4回調査までに出産した者は第1回調査時の、第4回調査から第7回調査までに出産した者は第4回調査時の、第7回調査から第10回調査までに出産した者は第7回調査時の、第10回調査から第13回調査までに出産した者は第10回調査時の状況である。
- 3) 第10回調査において、出産後の就業継続意欲を「続けるかどうか考えていない」「今後の出産は考えていない」と回答した者は「考えていない」に含む。
- 4) 12年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
- 5) 出産後の就業継続意欲の「総数」には、出産後の就業継続意欲不詳、正規・非正規以外の就業形態等を含む。

## 2 育児休業制度の有無・利用にあたっての雰囲気と出産後の妻の就業状況

妻の職場に育児休業制度がある方が、育児休業制度がない場合よりも出産後に同一就業を継続している割合が高い。

育児休業制度を利用しやすい雰囲気がある方が、利用しにくい雰囲気がある場合よりも出産後に同一就業を継続している割合が高い。

この11年間に子どもが生まれた夫婦（出産前に妻に仕事あり）について、妻の職場における育児休業制度の有無別に産後の妻の就業状況をみると、「制度あり」の方が「制度なし」よりも出産後に同一就業を継続している割合が高く、「制度あり」の場合でも、「利用しやすい雰囲気がある」の方が「利用しにくい雰囲気がある」よりも出産後に同一就業を継続している割合が高い（表4）。

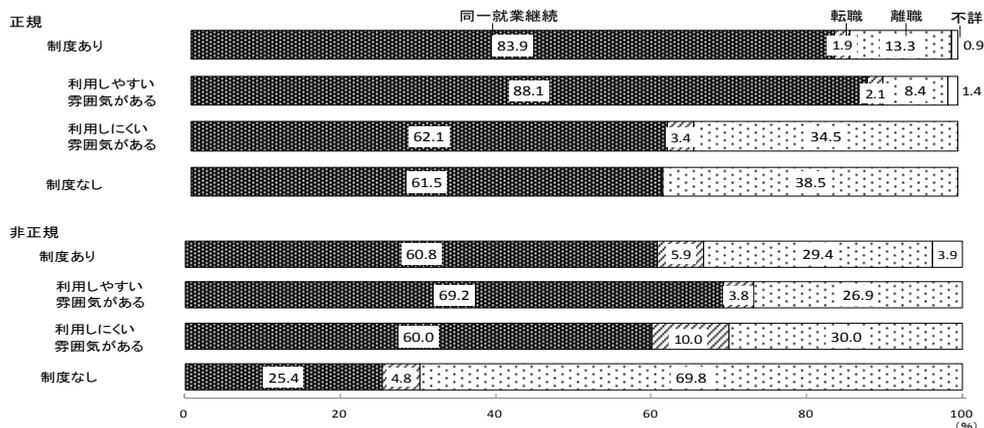
また、正規・非正規別にみると、妻の職場に育児休業制度がある場合、正規の方が非正規よりも同一就業を継続している割合が高い（表4、図2）。

表4 この11年間に子どもが生まれた夫婦（出産前に妻に仕事あり）の出産前の妻の職場の育児休業制度の状況別にみた産後の妻の就業状況【14年調査（第13回）】

		出産後の妻の就業状況					(単位: %)
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
育児休業制度の有無と利用にあたっての雰囲気	総数	(100.0)	100.0	63.9	3.8	31.3	1.0
	制度あり	(66.2)	100.0	79.4	2.7	16.4	1.5
	利用しやすい雰囲気がある	(42.7)	100.0	85.2	2.4	11.2	1.2
	利用しにくい雰囲気がある	(9.8)	100.0	61.5	5.1	33.3	-
	どちらとも言えない	(12.4)	100.0	73.5	2.0	22.4	2.0
	制度なし	(19.2)	100.0	31.6	3.9	64.5	-
	制度があるかないかわからない	(11.6)	100.0	32.6	8.7	58.7	-
	正規	(100.0)	100.0	82.3	1.7	15.2	0.9
	制度あり	(91.3)	100.0	83.9	1.9	13.3	0.9
	利用しやすい雰囲気がある	(61.9)	100.0	88.1	2.1	8.4	1.4
	利用しにくい雰囲気がある	(12.6)	100.0	62.1	3.4	34.5	-
	どちらとも言えない	(16.0)	100.0	83.8	-	16.2	-
	制度なし	(5.6)	100.0	61.5	-	38.5	-
	制度があるかないかわからない	(2.2)	100.0	80.0	-	20.0	-
	非正規	(100.0)	100.0	38.2	6.7	53.9	1.2
制度あり	(30.9)	100.0	60.8	5.9	29.4	3.9	
利用しやすい雰囲気がある	(15.8)	100.0	69.2	3.8	26.9	-	
利用しにくい雰囲気がある	(6.1)	100.0	60.0	10.0	30.0	-	
どちらとも言えない	(7.3)	100.0	41.7	8.3	41.7	8.3	
制度なし	(38.2)	100.0	25.4	4.8	69.8	-	
制度があるかないかわからない	(24.8)	100.0	26.8	9.8	63.4	-	

- 注：1) 集計対象は、11頁(1)①を参照。  
 2) 11年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。  
 3) 育児休業制度の有無の「総数」には、育児休業制度の有無不詳を含み、「制度あり」には、利用にあたっての雰囲気不詳を含む。

図2 この11年間に子どもが生まれた夫婦（出産前に妻に仕事あり）の出産前の妻の職場の育児休業制度の状況別にみた産後の妻の就業状況【14年調査（第13回）】



- 注：1) 集計対象は、11頁(1)①を参照。  
 2) 11年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。  
 3) 「制度あり」には、利用にあたっての雰囲気が「どちらとも言えない」及び不詳を含む。

### 3 夫の平日・休日の家事・育児時間と出産後の妻の就業状況

**夫の平日の家事・育児時間が長いほど、出産後の妻の同一就業継続の割合が高い傾向にある。**

この12年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）について、出産後の夫の家事・育児時間別に出産後の妻の就業状況をみると、出産後に同一就業を継続している割合は、夫の平日の家事・育児時間が「家事・育児時間なし」では54.3%、「4時間以上」では72.1%となっており、出産後の夫の家事・育児時間が長いほど、出産後の妻の同一就業継続の割合が高い傾向にある（表5）。

表5 この12年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）の  
 出産後の夫の家事・育児時間（平日・休日）別にみた出産後の妻の就業状況  
 【14年調査（第13回）】

(単位:%)

			出産後の妻の就業状況					
			総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出産後の夫の家事・育児時間	平日	総数	(100.0)	100.0	59.5	4.2	30.7	5.6
		家事・育児時間なし	(7.3)	100.0	54.3	2.9	40.0	2.9
		2時間未満	(50.5)	100.0	55.0	4.5	34.3	6.2
		2時間以上4時間未満	(31.1)	100.0	64.4	2.7	27.5	5.4
		4時間以上	(9.0)	100.0	72.1	9.3	14.0	4.7
	休日	総数	(100.0)	100.0	59.5	4.2	30.7	5.6
		家事・育児時間なし	(1.5)	100.0	57.1	-	42.9	-
		2時間未満	(15.2)	100.0	57.5	4.1	34.2	4.1
		2時間以上4時間未満	(20.7)	100.0	58.6	3.0	30.3	8.1
		4時間以上	(60.3)	100.0	60.9	4.8	29.1	5.2

注：1)集計対象は、11頁（1）①を参照。

2)12年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

3)家事・育児時間の「総数」には、家事・育児時間不詳を含む。

### Ⅲ 職業観について

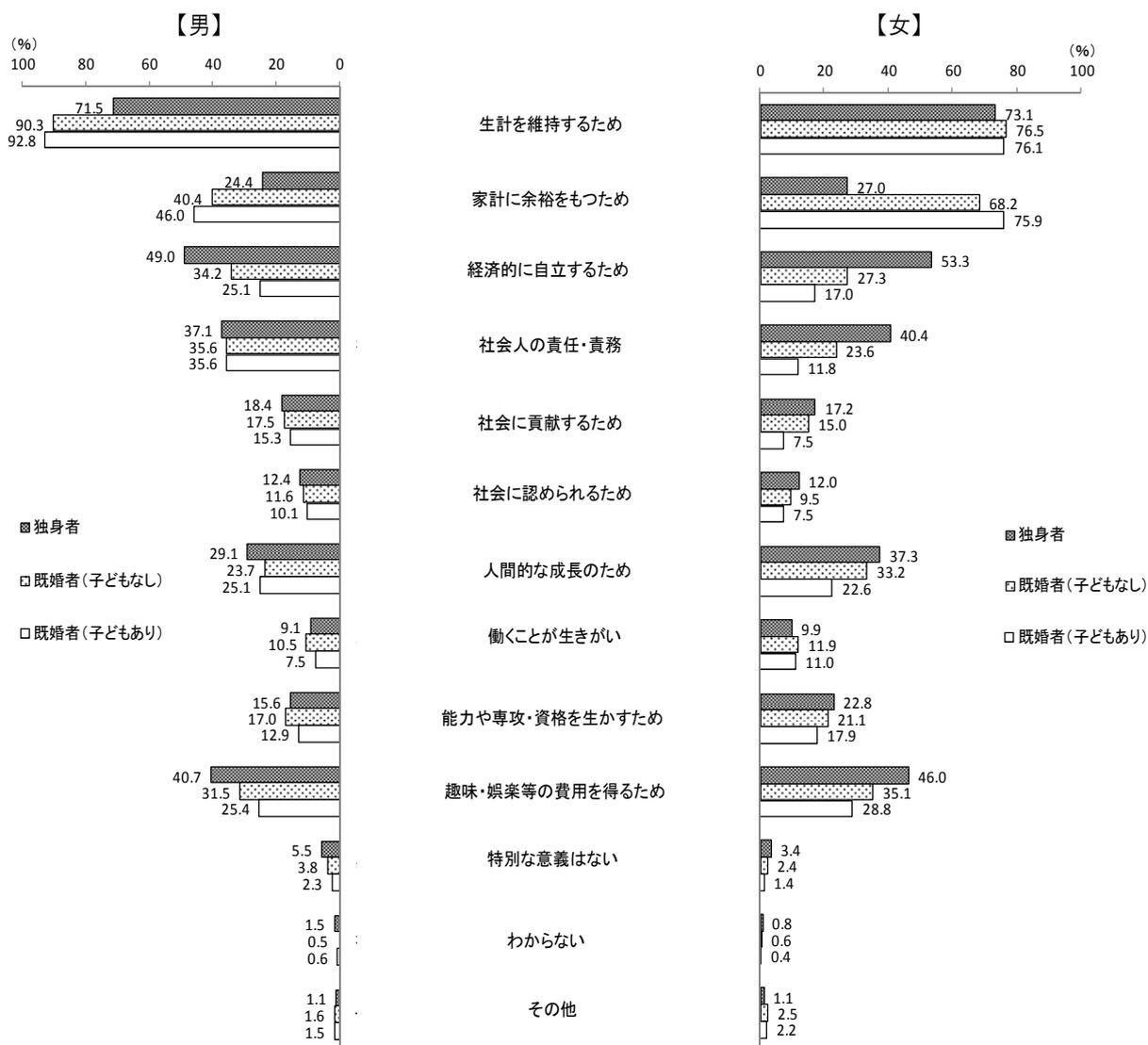
男女別に職業観をみると、「生計を維持するため」の割合が最も高い。

24年調査における第3回の職業観を性別にみると、男女とも「生計を維持するため」の割合が最も高い。

これを、独身者・既婚者（子どもの有無）別にみると、男性は、「生計を維持するため」「家計に余裕をもつため」が、「独身者」「既婚者（子どもなし）」「既婚者（子どもあり）」の順に割合が高くなる傾向にあるが、「経済的に自立するため」「趣味・娯楽等の費用を得るため」は、「独身者」「既婚者（子どもなし）」「既婚者（子どもあり）」の順に割合が低くなる傾向にある。

また、女性は、「家計に余裕をもつため」が、「独身者」「既婚者（子どもなし）」「既婚者（子どもあり）」の順に割合が高くなる傾向にあるが、それ以外の職業観は、割合が低くなる傾向にある（図3）。

図3 性、独身者・既婚者（子どもの有無）別にみた職業観（複数回答）の状況  
【24年調査（第3回）】



注：集計対象は、11頁（2）を参照。